

全ての林業労働者の処遇改善に向けて 諸課題について厚労省、林野庁交渉実施 ～2024森林労連中央行動～



発行所
熊本市西区京町本丁2の7
全国林野関連労働組合
九州地方本部
電話 096-354-1150

発行者 加来尚貴
発行日 10日
定価 1部20円
組合員の購読料は
組合費の中に含む

緑を育て、守る、 林野労組

6月9日～10日、2024森林
労連中央行動が東京都・林野会館
外で開催され、全国の地方から42
名が結集し、九州森林労連から11
名(直加盟労組1名、全山労8名、
林野労組2名)が参加しました。



要求の実現に向け要請書を手交

1日目は団結式が行われ、冒頭、中村森林労連中央執行委員長より、「第213国会で森林環境譲与税の一部改正等の見直しが行われた。要求が実現してきたことは、これまで取組の成果であるが、見直しの幅等の課題は残っている。しっかりと政府に声を上げ、対峙していくよう明日の交渉に臨む。また、未組織林業労働者の組織化はなかなか成果が上がっていない状況で、現在の組織状況は4,150名である。近年の森林整備予算の確保等の成果を地方段階でも積極的にアピールしてもらいたい。地方森林労連へは地域の林業事業体への声かけ、オルグの計画

をお願いしたい、現場の声を聞くため本部も積極的に向かいたい。本中央行動で改めて今後の意思統一をお願いする。」と挨拶。また、来賓の神谷裕衆議院議員(立憲民主党)より連帯の挨拶を受け、鳴川森林労連書記長より情勢と課題の提起があり、翌日の交渉に向けて意思統一が図られました。

引き続き、学習会では「秩父市、秩父地域における森林経営管理制度的取組」と題して秩父市農林部森づくり課の牧野裕介主幹より、制度を活用した森林の集約化等の取組の講演がありました。

2日目は、衆議院第二委員会館において、厚生労働省、林野庁に対し要請書を手交し、交渉に入りました。

厚生労働省に対しては、①林業における労働行政、②林業分野における外国人材の受け入れ、③労働安全対策、④振動障害防止対策、振動病対策の各課題で交渉を行いました。

九州からは、振動障害におけ

を聞いて、現場の声を聞くため本部も積極的に向かいたい。本中央行動で改めて今後の意思統一をお願いする。」と挨拶。また、来賓の神谷裕衆議院議員(立憲民主党)より連帯の挨拶を受け、鳴川森林労連書記長より情勢と課題の提起があり、翌日の交渉に向けて意思統一が図られました。



林業労働者の声を直接伝える

林野庁に対しては、①「森林・林業基本計画」及び森林吸収源対策の推進等に係る予算確保、②森林環境譲与税、③森林経営管理制度、④森林資源の循環利用の確立、⑤地域材の安定供給体制の確立及び木材利用の促進、⑥林業事業体の育成及び林業労働力の育成・確保、⑦労働安全衛生対策の確立、⑧東日



厚生労働省に実態を伝える中川副委員長

厚生労働省からは、「単価については今後も改定する予定はなく維持していく。」と回答がありました。

厚労省からは、「単価については今後も改定する予定はなく維持していく。」と回答がありました。

1. 空席ポストの解消について
交渉事項としては、
③年々事業量が増えているため、実行体制をどのように考

「天隅分会：吉田通信員」
令和6年5月23日当局に対し、団体交渉を実施しました。
今交渉については、新年度が始まり当局(署長・総務総括)にも交代があり、令和6年度事業実行体制に対しての当局認識を改めて問う交渉となりました。

労働条件の改善に向けて 団体交渉 大隅分会へ

働きやすい職場に向け強く求める

本大震災の復興に係る森林・林業の再生、⑨公的森林整備の拡充及び国有林野事業の推進等について交渉を行いました。

また、九州直加盟(飲肥造林従業員労働組合・山野氏)からも、事業体の育成等、現場実態を交え、林業労働者への処遇改善を求めました。労働安全対策の強化については、九州局における請負事業体等の災害状況に踏まえ、現場で働く労働者に行き届く工夫した安全指導の徹底

①4月の人事異動で更に空席ポスト、空席ポストに伴う事務取扱の増加により業務の回しが行き止まりとなっているのか。
②一般職員が森林整備官の業務を行うなど若手職員への過度な負担が懸念されるなど空席ポストの解消を求めるとともにしっかりとしたフォロー体制をとる対策を行い、業務運営が円滑に進むよう求める。
③年々事業量が増えているため、実行体制をどのように考

2. 事業量増加に伴う職員への負担について
の2点を重点的に交渉を行いました。
具体的には、

④一部の職員への過度な負担及び超過勤務とならないよう配慮し応援体制を図ること。
⑤年休の取得しやすい職場づくりをすること。
などについて、当局に対し対応を求めました。
当局からは、

当面の行動

- 7月2日 宮崎県林活議連研修会
- 7月6日 全国共済理事会・代表委員会
- 7月19日 分会代表者会議、第20回地本定期大会
- 7月20日 第19回青年女性委員会委員長会議
- 7月26日 全国共済理事会、全国代表者会議、林野会館評議会
- 7月27日 第20回定期全国大会
- 7月28日 森林労連第35回定期全国大会

ア. 各業務を円滑に行うにあたって、現在各グループで総括を中心に行っている打ち合わせ等を引き続き実施し、職員間の連携を密にして業務が回せるよう進めてまいりたい。
イ. 一般職員への過度な負担が無いよう、目配り配りをしつつ状況も把握し、フォローアップをしながら、空席ポストの解消についても、引き続き署の実態等を上局へ説明し解消に取り組んでまいりたい。

ウ. 前年度より事業量が増加しているが、各事業を円滑に行えるよう署長がリーダーシップを発揮し、職員間で協力し合える体制を構築しながら事業を実施してまいりたい。
エ. 一部の職員への過度な負担とならないよう配慮するとともに、何でも相談できる風通しの良い職場づくりに引き続き取り組んでまいりたい。

ウ. 前年度より事業量が増加しているが、各事業を円滑に行えるよう署長がリーダーシップを発揮し、職員間で協力し合える体制を構築しながら事業を実施してまいりたい。
エ. 一部の職員への過度な負担とならないよう配慮するとともに、何でも相談できる風通しの良い職場づくりに引き続き取り組んでまいりたい。

認識している。事業体の収益性の向上に向け、意見等を踏まえ、引き続き検討していく。「労働安全確保については、関係機関との連携強化に取り組む、労働災害防止対策を強化していく。」との回答を受けました。

その後、解団式を行い、鳴川森林労連書記長より本行動の総括があり、中村森林労連中央執行委員長の団結ガンパローで全日程を終了しました。

最後に、今後についてもコミュニケーションをしっかりととり、各種課題等の解決に向け、向きあっていくことを確認し交渉を終了しました。

最後に、今後についてもコミュニケーションをしっかりととり、各種課題等の解決に向け、向きあっていくことを確認し交渉を終了しました。

最後に、今後についてもコミュニケーションをしっかりととり、各種課題等の解決に向け、向きあっていくことを確認し交渉を終了しました。

最後に、今後についてもコミュニケーションをしっかりととり、各種課題等の解決に向け、向きあっていくことを確認し交渉を終了しました。

招待すること。競技人口が減る中、招待して興味を持ってもらえる良い取組ではないか▼先日、井上尚弥が東京ドームで大観衆の中で防衛したのが記憶に新しい。井上は全てが万能であり、弱点も見当たらない。素晴らしいのがKO決着が多い所だ▼筆者もボクシングをしていたが、先輩ボクサーは「判定は完全には信用してない」と話していた。試合がホームかアウェーかでも違うとの事。井上は完全決着している▼「判定するもの人間だから」という声もあるが、感情で左右されず公平・公正な判断を下してもらいたいものだ。もし、判定により、努力が報われなといった事や、不利益を被る事があるならば、私は... 員になりたい。(SUKIE)

招待すること。競技人口が減る中、招待して興味を持ってもらえる良い取組ではないか▼先日、井上尚弥が東京ドームで大観衆の中で防衛したのが記憶に新しい。井上は全てが万能であり、弱点も見当たらない。素晴らしいのがKO決着が多い所だ▼筆者もボクシングをしていたが、先輩ボクサーは「判定は完全には信用してない」と話していた。試合がホームかアウェーかでも違うとの事。井上は完全決着している▼「判定するもの人間だから」という声もあるが、感情で左右されず公平・公正な判断を下してもらいたいものだ。もし、判定により、努力が報われなといった事や、不利益を被る事があるならば、私は... 員になりたい。(SUKIE)

招待すること。競技人口が減る中、招待して興味を持ってもらえる良い取組ではないか▼先日、井上尚弥が東京ドームで大観衆の中で防衛したのが記憶に新しい。井上は全てが万能であり、弱点も見当たらない。素晴らしいのがKO決着が多い所だ▼筆者もボクシングをしていたが、先輩ボクサーは「判定は完全には信用してない」と話していた。試合がホームかアウェーかでも違うとの事。井上は完全決着している▼「判定するもの人間だから」という声もあるが、感情で左右されず公平・公正な判断を下してもらいたいものだ。もし、判定により、努力が報われなといった事や、不利益を被る事があるならば、私は... 員になりたい。(SUKIE)

招待すること。競技人口が減る中、招待して興味を持ってもらえる良い取組ではないか▼先日、井上尚弥が東京ドームで大観衆の中で防衛したのが記憶に新しい。井上は全てが万能であり、弱点も見当たらない。素晴らしいのがKO決着が多い所だ▼筆者もボクシングをしていたが、先輩ボクサーは「判定は完全には信用してない」と話していた。試合がホームかアウェーかでも違うとの事。井上は完全決着している▼「判定するもの人間だから」という声もあるが、感情で左右されず公平・公正な判断を下してもらいたいものだ。もし、判定により、努力が報われなといった事や、不利益を被る事があるならば、私は... 員になりたい。(SUKIE)

匠の腕 坂本龍馬

「サムライブルー 坂本龍馬」
(撮影者 天海 暁:長崎分会)



「匠の一言」
島原に坂本龍馬と私たちがやって来た。



7月7日ボクシングで日本人王者の試合が行われる。七夕の開催で、50組の親子を

第20回林野労組定期全国大会

代議員の決意表明

第20回林野労組定期全国大会が、7月27日、東京都内の連合会館において開催されます。

九州地本選挙管理委員会が代議員選挙を公示し、各立候補者から決意表明が寄せられましたので、掲載をします。

なお、全国大会代議員は、全区4名、地区1名（鹿児島ブロック）の計5名となっています。



中川秀樹(局)

物価高に伴い約30年ぶりに大幅な賃上げとなりましたが、依然として物価高にたどり着いていない状況や異常気象等による自然災害が続いています。



歌野国光(局)

今、国有林野事業は新たな制度や法律に基づく、これまでになく新しい業務遂行の増加など、その使命・役割は多様化しています。

一方、国有林野事業は、退職者の増加に伴う業務量の増加や要員問題による労働加重や様々な問題を抱えています。課題解消に向け、様々な取組の前進となるよう全国大会の討議に参加したいと思います。



一方、私たちの職場は、大きな課題となっている要員不足と増え続ける空席ポストなどの影響から、職員一人ひとりが担う業務量の増加から、多くの組合員より不安や不満の声が挙げられている状況にあり、喫緊の課題となっています。

全国大会では、組織態勢の確立、また諸課題解消の前進に向けた運動の展開について、討議に参加したいと思います。



古村健児(局)

森林の公益的機能を十分に発揮させることや林地保全の対策、花粉症発生源対策など、国有林に対する国民の期待が高まっています。



加来尚貴(局)

昨年の全国大会には、傍聴として参加し、青年女性委員で大会運営委員として参加して以来約10年振りの参加となりました。青年女性委員会で参加した当時

一方で、業務遂行に必要な安定した職場環境における現状は、業務量だけが増加し、1980年には7万人を超え、2007年は6千人を超えていた職員が、2023年は45百人と、職員数は減少の一途を辿っています。こういった限られた要員での業務遂行では、危機的な状況が続いています。さらに、累積債務問題をはじめ現場管理機能への不安など、多くの組合員から、将来に対する不安や不満の声が挙げられています。

こうした組合員の声を基に、

は特別会計であり、一般会計に移行して初の参加となった昨年度においては、一般会計後の様々な課題が出されました。要員不足や退職者の増加により、業務量が増加している等、依然として課題は山積している状況にあります。

こうした各種課題に対して、課題解消に向けた運動の方向性を全体で共有し、取組を前進させるとともに、更なる組織態勢の強化が図られるよう、全国大会の討議に参加したいと思います。

全区4名
地区1名



江口 晃(鶴)

当面する要員関連課題の改善や労働条件諸課題の改善などに向けた取り組みが前進するよう全国大会の議論に参加します。

国有林野事業はこれまでの

青年女性委員会の取組前進へ 常任委員会で意思統一

～九州地本青年女性委員会常任委員会～



全員でより良い運動に向けて

6月15日、16日、熊本市において第4回常任委員会を開催し、

青年女性委員会の3役と各常任の8名が参加しました。委員会の冒頭、山形青年女性委員長から「7月に開催される青年女性委員長会議の開催に向けて意思統一していききたい」と挨拶がありました。はじめに北崎、熊本、宮崎、鹿児島各ブロック別の活動報告を行い、取組の共有を行いました。

その後、青年女性委員会独自の組織実態調査を取りまとめ、集約していきま。今後の財政状況についても共有していき、各種集会等をどう開催していくか検討していきま。昨年度、企画・実行した物販活動については、今後も引き続き行っていくことを確認し、様々なアイデアを出しながら、より良いものとしていき、青年女性の全体集会の開催に繋げていくことで再度意思統一を図りました。

また、青年女性委員において地本定期大会の実行委員として参加するため、地本の執行委員と定期大会のスケジュールを共有し、事前準備等の役割を確認しました。地本定期大会後には青年女性委員長会議が開催さ

あの人とあの人

「7年目のルーキー」

山本 佑主さん(森林・技術センター分会)



独自の魅力ある笑顔でみんなを明るくする

今回紹介するのは森林技術・支援センターから山本佑主さんです。山本さんは採用7年目で今年度から技センに来ました。

山本さんは今年度から技センで技術開発担当として調査の際の野帳の準備や、集計等を行っています。今まで治山・林道しか経験していませんでしたが、今までは違う分野でさらに暑い仕事とは少し違う技センの仕事に四苦八苦しな業務に取り組んでいます。また、山本さんは独自の魅力があり、その人柄も相まって周りを明るくしてくれます。

そんな山本さん、最後に、今後も若い力で失敗を恐れず、持ち前の明るさと行動力で、仕事・分會活動での活躍を期待しています。

(岩下通信員・技セン分会)

様々な改革により、組織機構は縮小し要員は減少し、仕事の進め方も大きく様変わりしてきました。

各業務の電子化は進み効率的になったとはいえ、事務改善は進まず以前と変わらない業務量で空席ポストが増えたことによる、入庁間もない若年労働者に皺寄せがきています。

全国大会では、要員が減少する中での林業技術の維持・継承、現場管理機能の確保、職場環境の改善等山積する諸課題解決に向けた取り組みが前進するよう討議に参加したいと思います。